

施策の方向性の考え方について

道路・交通分野

区 の 補 助 計 画 等 の ま と め	1 道路・交通分野の政策課題	2 課題解決に向けた施策の方向性
	<p>(1)【都市計画道路】都市計画道路補助127号線整備については、早期の事業化に向け、沿道地権者や地域住民との合意形成を図る必要がある。</p> <p>(2)【無電柱化】国道や都道に比べ幅員の狭い区道においても、財源の確保や整備手法の確立により、無電柱化を進めていく必要がある。</p> <p>(3)【長寿命化】平成25年6月の「道路法」の改正により、橋りょう等における5年に1回の定期点検の実施、近接目視による点検方法が規定されたことから、今後増大が見込まれる道路橋りょうの維持管理コストを確保する必要がある。</p> <p>(4)【交通バリアフリー】歩行者優先を基本とし、歩いて暮らせる街づくりや歩行空間のネットワークの形成を進め、歩道の有効幅員確保に向けた取組や段差や勾配などの基準に対応するための整備を促進していく必要がある。</p> <p>(5)【自転車対策】鉄道駅周辺の自転車等放置禁止区域の見直しとともに、利用実態に応じた自転車駐輪場の運営を行う必要がある。</p> <p>(6)【自転車対策】目黒区における交通事故の自転車関与率は、年々減少傾向にあるが、依然として東京都の全体よりはやや高く、引き続き自転車の交通安全対策に重点的に取り組む必要がある。</p>	<p>【5年後】</p> <p>(1)【都市計画道路】補助127号線の整備については、自由が丘駅前西及び北地区の街づくりと連携し、災害時の避難経路や一時避難滞留場所として整備を進めていく。</p> <p>(2)【都市計画道路】一般延焼遮断帯である補助46号線(目黒本町地区)の整備完了、環状6号線(上目黒、下目黒)の整備完了、補助26号線(中央町)の整備を進める。</p> <p>(3)【無電柱化】「電線類地中化整備基本方針」における優先整備路線である東邦大学大橋病院前路線の無電柱化を完了し、令和2年度には「無電柱化推進計画」を策定し取組を推進する。</p> <p>(4)【長寿命化】道路・橋りょうの長寿命化については、計画的に耐震化、修繕及び点検を進め、予防保全による維持管理を行い、修繕にかかる費用の更なる平準化を行う。</p> <p>(5)【交通バリアフリー】「交通バリアフリー推進基本構想」における重点整備地区でのバリアフリー化に向けた財源確保や調整、協議を進めていく。</p> <p>(6)【自転車対策】「自転車走行環境整備計画」における優先整備路線33.8kmにおいて自転車ナビマークの整備を完了する。</p> <p>(7)【自転車対策】自転車安全利用促進に向けた取組を推進する。</p> <p>【10年後】</p> <p>(1)【都市計画道路】一般延焼遮断帯である補助46号線(原町・洗足地区)の整備完了、補助26号線(駒場)の整備を進めていく。自由が丘駅周辺地区において補助127号線の整備が完了する。</p> <p>(2)【長寿命化】道路・橋りょうの長寿命化については、予防保全型の管理により、長寿命化を図り、継続的な安全性と信頼性を確立する。</p> <p>(3)【自転車対策】優先整備路線を含む自転車走行環境整備路線77.7kmにおいて自転車ナビマークの整備を完了する。自転車の利用促進や自転車におけるルール・マナー等を区民に浸透させる。</p> <p>(4)【自転車対策】自転車安全利用促進に向けた取組を推進する。</p>



審 議 会 ま と め	3 審議会での主な意見	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車安全利用促進についてだが、ハード面は充実しているがソフト面での取組も必要ではないか。 ○ 課題解決の方向性の10年後の中で自転車の利用促進とともに自転車のルール・マナーの浸透を挙げているが、自転車安全条例の制定の方向性を踏まえれば、遅すぎる。5年後の目標とすべきである。 ○ 自転車の最低限のルールが道路上に示されていれば、マナーの改善につながるのではないか。 ○ 都心部からの主要な道路の整備に伴い交通量も増加し、渋滞が発生するとう回路を利用されるため、う回路の安全性の整備も必要ではないか。 ○ 目黒区は坂道が多くそれに伴う事故也多発するため、明らかに事故が多い箇所の改善や対策を進めていくべきだ。降雪時の危機管理や対策も必要だろう。 ○ 10年後ぐらいには人口減少や高齢化が進む中で、坂道の多い目黒区の地域の特性に合った課題を検討していくべきではないか。 ○ 政策課題や解決の方向性の中で「交通バリアフリー」は掲げられているが、高齢者や障害者などの交通弱者に対する施策を記載すべきである。 ○ 道路が計画された頃とは、人口の状況や環境に対する意識も変わっている。経済効果から目を転じて、車の通らない、緑地帯・公園を兼ねた歩行者専用の遊歩道なら、「子どもの元気のみえるまち」の実現に近づくのではないかと思う。 ○ コミュニティバスなどの地域交通に関する記載がないので、加えるべきである。 	
	4 道路・交通分野の概ね20年後の区の将来像やあるべき姿【キーワード】	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道路、橋りょう等の整備・長寿命化の推進 ○ 歩行者に配慮した交通バリアフリーの推進 ○ 交通安全対策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放置自転車対策の更なる推進 ○ 安全な自転車走行環境の整備と自転車の安全利用の推進